

auto fashion import

af imp.

8

www.autofashion.com/imp
2011年8月号 定価700円 毎月10日発売
次号2011年9月号は8月10日(水)発売

VW&Audi乗りの聖地ヴェルターゼーに潜入

自由自在に楽しむ ヨーロッパスタイル

Wörthersee Treffen 30th &
VW GOLF GTI 35th ANIV.



Made in ジャパンのコダワリ

3D Desing arc ARGRAY BBS BEWITH
DuelLAG ENDLESS ENKEI WALD and more...

輸入車チューニング大特集

RS! imp.

Tuning Star "Audi TT"
ネオ・クラシックを楽しむ
E30 M3/ALPINA B10

日本のクラフトマンシップが生み出した究極のサウンド

新興メーカーがもたらした カーオーディオ革命



BEWITH

いち早くメモリーオーディオの“音質”に着目



↑純正システムにもアドオンできるミラー型のMM-1。光学用レンズにも使われる高品位ガラス素材など、オーディオ部以外の作り込みも秀逸



↑コンパクトフラッシュを採用した理由は、端子が剥き出しになっていないため信頼性が高いから。WAVとMP3の再生に対応する

偏芯コーンというオンリーワンの価値



↑13cmのミッドウーファーと5cmのツイーターが同一構造・同一素材・同一磁気回路で構成される。圧倒的な音の情報量は、他の追随を許さない



↑ただオフセットだけでなく、部位によって振動板の厚みを変えて重量を均一化し、正確な動きを実現。Made in Japanが実現した繊細な作り込みだ

ビーウィズ

BEWITH

問●ビーウィズ TEL.0942-85-8000 www.bewith.jp

ブランド創設から約10年、今やカーオーディオファンで知らない人はいない存在となったビーウィズ。その原動力となったのは、先を見据えた商品企画と、オールジャパンメイドの技術力。かつて世界一と言われた「日本のもの作り」の姿が、そこにある

写真●小松英章 文●三澤正充 (af imp.)

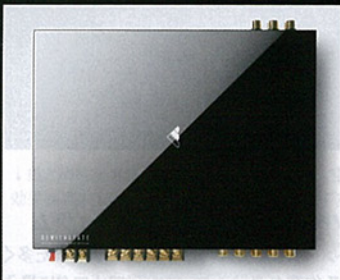
内外、様々なメーカーから発売され、その多くが「原音再生」を掲げる。しかし中低域を受け持つウーファーはコーン型と呼ばれる形状、高域を受け持つツイーターはドーム型と呼ばれる形状が多い。構造が違うため最適な振動板素材も異なり、結果的に音色を統一するのが難しくなる。じゃあ、どちらも同じ構造にすれば？ と思ってしまうが、ドーム型

世界一の音を作り上げる上で不可欠な、日本製という価値

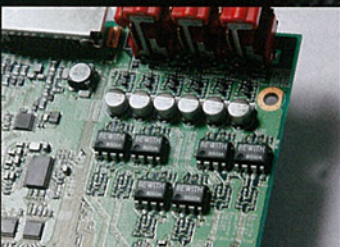
生産拠点が続々と海外へ移される昨今において、理想とする商品のために「メイドインジャパン」にこだわっているのがビーウィズだ。同社の独自のアイデアと、求めるクオリティを実現するためには、高い技術力をもつ工場が不可欠。結果、品質に対して世界一厳しい日本で製造することが必要になった。

同社が最初にリリースしたのは、13cmセバレート2ウェイスピーカー「コンフィデンス」。スピーカーは国内、様々なメーカーから発売され、その多くが「原音再生」を掲げる。しかし中低域を受け持つウーファーはコーン型と呼ばれる形状、高域を受け持つツイーターはドーム型と呼ばれる形状が多い。構造が違うため最適な振動板素材も異なり、結果的に音色を統一するのが難しくなる。じゃあ、どちらも同じ構造にすれば？ と思ってしまうが、ドーム型

ついに“オペアンプ開発”という未知の領域へ



↑クルマで言うところのECUチューンを可能にするプロセッサー「ビーウィズステート」。そのほかアンプ、レギュレーターなど幅広い商品構成を誇る



↑これまでは既存の部品から最良のものを選び、それに合わせて回路を構成するしかなかった。しかし新日本無線と半導体を共同で開発。常識を覆した

は中低域が苦手。コーン型は構造によって生じる振動でできた中音の谷が高音にも影響し、高域が伸びないためツイーターには不向きだ。

そこでビーウィズが考えたのが、中心軸をオフセットして振動を分散する「偏芯コーン」。スピーカーの写真をみると中央の黒いセンターキヤップが微妙にズレていることが分かるが、これによってコーン型のツイーターながら、中域から高域まで伸びやかな再生を実現。ミッドウーファーとツイーターを同一構造・同一素材とすることを可能にしたのだ。もうひとつビーウィズの代表的商

品と言えるのが、コンパクトフラッシュを使ったデジタルオーディオプレーヤー「MM-1」。今こそ「フラッシュメモリー」の高音質という考えが浸透してきているが、2005年の発売時はなかなか信じてもらえなかったという。というのも、MM-1の登場は同じくフラッシュメモリーを使ったiPodナノより数カ月早いという。そもそもこういったデジタルプレーヤーは、多くの曲が持ち運べるという利便性はかりがフューチャーされていたのだ。しかしLCDやHDDと違って回転する部分がないフラッシュメモリーは、読み取り精度が高く、駆動ノイズも発生しないため、音質は極めてクリア。年々、その評価を高め、登場から6年経った現在でも人気は衰えず、年間の販売台数を更新し続けている。

現在、ヨーロッパやアジア圏でも販売し、北米への本格進出も見込めるビーウィズ。メイドインジャパンの誇りと共に、今後も新しいカーオーディオの形を見せてくれるだろう。